

みんなで見守る 白神山地

～白神山地ブナ林モニタリングの20年～

10/14(日) 13:00～15:00

会場: 秋田県藤里町 ホテルゆとりあ藤里

入場無料
申込不要

○基調講演

中 静 透 (白神山地ブナ林モニタリング調査会会長、
総合地球環境学研究所プログラムディレクター・特任教授)

「森って動いているんだよ!」

○パネルディスカッション

「私たちがモニタリングを続けている理由」

パネリスト

中山 隆志 (★、東北森林管理局委嘱世界遺産白神山地巡視員)

神林 友広 (★、深浦町白神倶楽部)

大野 美涼 (★、弘前大学農学生命科学部学生)

日下部 玄 (★、北海道大学環境科学院修士課程)

★: 調査会会員

コメンテーター

中 静 透

コーディネーター

蒔田 明史 (調査会副会長、秋田県立大学教授)

問い合わせ先: 秋田県立大学森林科学研究室 蒔田 明史
018-872-1619 makita@akita-pu.ac.jp

主催: 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会
協力: 環境省西目屋自然保護官事務所

ホテルゆとりあ藤里
所在地: 〒018-3201
藤里町藤琴上湯の沢1-2
電話: 0120-535-362



中 静 透 (なかしずか とおる)

基調講演、コメンテーター

総合地球環境学研究所プログラムディレクター・特任教授。1956年新潟県生まれ。

専門は森林生態学、生物多様性。

1986年ころから白神山地のブナ林を調査、その後1991年にIUCNに白神山地の説明、

1999年より白神山地のブナ林モニタリングに参加、現在、会長。2010年より白神山地世界遺産科学委員会委員長を務める。

「モニタリングは、地域の人たちがたくさん参加することに意義があります。白神山地のことを、もっとよく知り、その変化を知ること、より、地域にとって白神山地の世界遺産がどういう意味を持つのか、わかるのではないかと思います。ぜひ、みなさんもモニタリングに参加してください。」



中山 隆志 (なかやま たかし)

パネリスト

青森市民。1947年青森市生まれ。中小企業団体支援機関等44年勤務。1989年白神山地に入り各種会に所属。現在東北森林管理局委嘱世界遺産白神山地巡視員、環境省自然公園指導員、登山関連の会、バードカービング会所属。2003年より当会に参加。
モニタリングとは? 「ふれあいと連携」



神林 友広 (かんばやし ともひろ)

パネリスト

深浦町役場。1969年、深浦町(旧岩崎村)生まれ。

1999年環境省によるモニタリング手法開発プロジェクトに参加したことをきっかけとして、2005年6月から岩崎中学校生徒と共に、津軽国定公園十二湖ブナ林のモニタリング調査を開始。同校は2005年世界自然遺産会議(弘前市)にて調査結果を発表したほか、2014年度「みどりの日」自然環境功労環境大臣表彰受賞。現在も調査指導にあたるかたわら、白神倶楽部事務局、白神山地巡視員活動に従事する。

白神山地ブナ林調査への関わりもかれこれ20年

モニタリングとは? 「人生の短さ、自分の小ささを確認する場」



日下部 玄 (くさかべ げん)

パネリスト

北海道大学環境科学院修士課程。1995年長野県生まれ。

「白神の森を見たい」という思いから2014年に弘前大学に入学し、以来ブナ林モニタリング調査にも参加している。

本年度から北海道大学大学院へ進学し森林生態学を専攻。つる性の樹木に興味があり、現在

はつる性木本が育む生物多様性について研究している。

モニタリングとは? 「動いていないようで動き続けている森を感じられる場所」



大野 美涼 (おおの みすず)

パネリスト

弘前大学農学生命科学部学生。1995年北海道生まれ。

2015年にブナ林モニタリング調査に参加したことをきっかけに、青森の自然やブナ林に興味を持つ。現在は森林生態学研究室に所属し、落葉高木樹の冬芽や開葉のタイミングについて研究している。

モニタリングとは? 「森と人、人と人がつながる場所」



蒔田 明史 (まきた あきふみ)

コーディネーター

秋田県立大学教授。1955年京都市生まれ。専門は森林生態学、環境教育学。

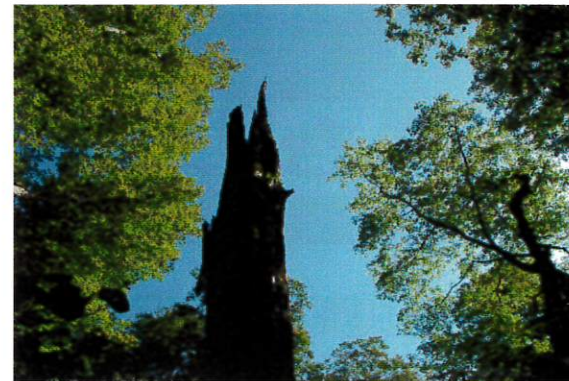
100年以上の周期で一斉開花するササの生活史に興味を持ち、八甲田や十和田などで長期継続調査を行ってきた。ちょうど秋田に来た年にモニタリングが始まり、多様な人たちの出会いが楽しくて関わり続けてきた。

モニタリングとは? 「多様で気長な森の時間を感じられるとき」

ブナ林は変化しています！

世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会

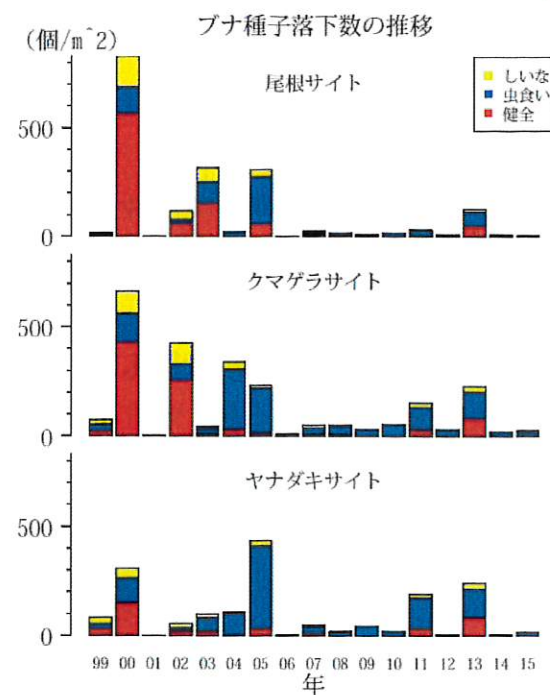
白神山地のブナ林のような原生林は、長い間変化していないように見えますが、実は少しずつ変化しています。4000年間、ブナ林が続いてきたと言っても、一本一本のブナは4000年も生きられませんから、大木が倒れたあとそのあとを継ぐ木が育ってこなくてはなりません。種子（タネ）が生産され、実生が生えてそれが大きくなり、やがて枯れてゆくということを繰り返しながら森は続いてゆくのです。また、タネも毎年稔るわけではなく、何年かに1回大量に稔りますが、そのほかの年はあまり稔らないというようなこともわかっています。白神山地では、2000年に大量にタネが稔りましたが、それ以降、大量にタネが稔った年はほとんどありません。



大木が倒れ、ブナ林の天井に穴があく。

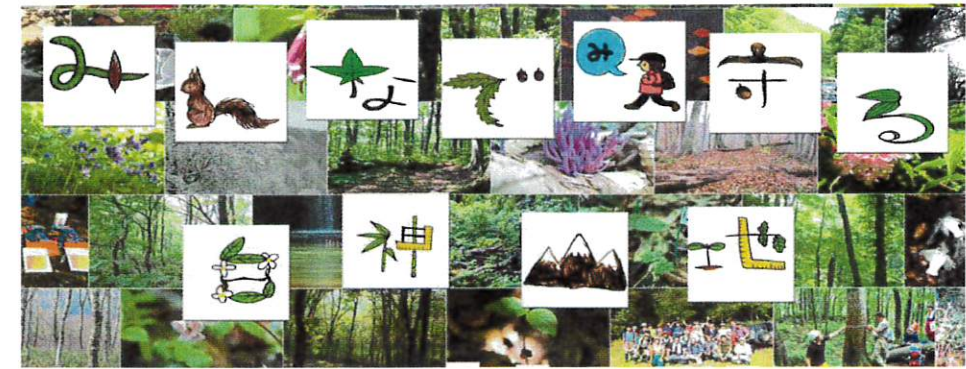


大豊作のブナの種子



ブナ林を定期的に観察することで、こうした変化にいち早く気づき、対策をとるために必要なのが「モニタリング」です。白神山地では、ボランティアグループと環境省が協力して、1999年から毎年ブナ林の変化をモニタリングしています。

白神山地は世界に誇れるブナ林が残っていることで世界遺産に指定されています（裏をご覧ください）。白神山地周辺の地域の人たちが自主的にモニタリングをすることで、世界遺産の価値をより深く知ることができ、その変化にいち早く気づき、その将来を地域中心で考えてゆくことができるでしょう。みなさんもモニタリングに参加してみませんか？



白神山地ブナ林モニタリング調査へのお誘い

世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会

世界自然遺産白神山地のブナ林では、どんな変化が起こっているのか？森林の変化はなかなか目に見えませんが、毎年同じ場所を見続けていくとその動きが見えてきます。世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会は、世界遺産のブナ林がどのようにできあがり、移り変わっていくかを知るために、世界遺産の核心部分に1haの調査区を3カ所設置し、研究者・学生・一般ボランティア・行政が協力して、毎年調査を続けています。科学の視点で白神山地のブナ林を見てみませんか。

詳しくは、白神山地モニタリング調査会HP参照 (<http://monitoring.sakura.ne.jp/>)

2018年のモニタリング予定

- 6/23(土) : 調査区の設定
- 7/28(土) : サンプル回収
- 8/25(土) : 9月のモニタリング調査準備、調査区のメンテナンス(予定)
- 9/7(金)～9(日) : モニタリング調査(テント泊2泊3日)
- 10/6(土) : サンプル回収
- 11/3(土) : サンプル回収と調査区撤収;打ち上げ!

- 基本的に調査前日夜に青森県西目屋村の遺産センター集合。9月以外は調査日に山から戻り、その夜に戻ることも可能ですし、遺産センター泊で翌日帰りも可能です。
- 山を歩ける人なら誰でも参加できます。参加希望者が多い場合は世界遺産地への悪影響を考慮して、他の時期の調査に回っていただくかもしれません。

参加希望者は各調査日の2週間前までにご連絡ください。

連絡先:事務局 石橋 史朗
office@monitoring.sakura.ne.jp



2010.09.03-05 白神山地毎木・毎竹調査